

子育てや仕事をしながらMBA取得。 「学び直し」で人生が変わりました。



鶴見大学歯学部 非常勤講師

澤田 裕美
 HIROMI SAWADA

■ PROFILE ■

鶴見大学歯学部非常勤講師、秘書技能検定面接審査員など。2014年3月立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修了。13年度優秀ビジネスプラン受賞。全日本空輸(株)にてグランドホステスとして皇室などのVIP対応の接客業務を経て独立。民間企業の人材教育・業務改善に取り組み、現在は医師や大学生(医学部・歯学部)向けに講義を行う。1児の母。



『ビジネスシミュレーション』のビジネスプランで実際に制作したバック。

経験知では限界があるとRBSの門をたたく。 限られた時間で学ぶ、社会人ならではの活かし方。

航空会社での経験を活かして、マナーや接遇に関する人材教育に携わってきました。そんな時、医療系大学で「プロフェッショナルリズム教育」と題する講義を行う機会に恵まれました。医師・歯科医師の国家試験で、治療技術の習得とともに、患者さんやスタッフなどのコミュニケーションの重要性が問われています。

私自身の経験則を踏まえた授業を行うことに、責任の重さや限界を感じるようになりました。そこで、**ホスピタリティ分野で定評のあるRBSで「学び直し」を行い、自分自身が拠って立つ位置や職責などを確認する機会にしよう**と考えました。

しかし、仕事との両立はもとより、当時子供は4歳になったばかり。「コミュニケーション」を生業とする自分が「時間がない」という理由でおざなりにすることはありえない。学ぶ内容に優先順位を付けました。入学が決まるとすぐにシラバスを読み込み、受講したい科目を選定。事前に先生の著書や論文を読み漁り、自分が学びたい内容と授業にズレがないかを確認。授業終了後の到達レベルを想定して、毎回の授業に臨みました。

白熱した授業と、苦勞した論文作成。 いかに社会貢献できるか、こだわった2年間。

在学中に印象深かった授業は、ひとつは1年次秋学期B期間の『ビジネスシミュレーション』です。院生数名でチームを編成して、新規事業のビジネスプランを競い合います。私のチームは、女性向けのビジネスバックを商品開発することをテーマに、年末年始も打合せを重ねて、試作品(見本)まで作成して提案しました。

もうひとつは2年目の修士論文の作成です。11月になっても、なかなか筆が進みませんでした。「澤田さんにしか書けない内容を」と指導教授の亀川雅人先生に背中を押され、ようやく具体的なビジネスプランを取りまとめることができました(テーマは歯科医療のコミュニケーション教育)。修了時には優秀賞を授けられました。

2年間の院生生活で常に心掛けたことは、「いかに社会貢献できるか」。久々のキャンパスライフを楽しむとともに、子育てや幼稚園PTA会長、それに他大学の講師などとしてバランス配分に苦勞しました。だからこそ、**社会に役立つ成果を出さねばとの義務感を抱いて大学へ通いました**。全力で挑戦する人に、RBSは必ず応えてくれます。

(取材・文/13期生 南陽子 撮影/13期生 阿部正樹)

編集後記

今後1年に渡りBizComに携わせて頂く神野です。BizComを通じたRBSの認知、普及活動により色々な人のつながりの輪を広げていきたいと考えています。皆さまご協力お願いいたします。
 (神野真琴)

澤田裕美さんの取材で撮影役を務め、まるで自分がプロカメラマンになった気分でした。こんな楽しい経験はありません!新しいカメラが欲しくなった今日この頃です。
 (阿部正樹)

11期生の澤田さんのインタビューでは終始感動しっぱなし。秋学期ももっともっと頑張ろうと思えました。そしてそんな感動が少しでも記事から伝われば…、本当に嬉しいです。
 (南陽子)

本号より編集長としてバリエーションに溢れたRBS大学院生の素晴らしさを伝えられる紙面作りに努めます。より身近なニュースレターとなるよう、皆様のご協力をよろしくお願いします。
 (編集長 杉山章)